

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しい国語</h1>	2 東 書
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○「てびき」にある「広がる言葉」と資料編「言葉を広げよう」には、多くの言葉を掲載していて語彙を増やす工夫がある。 ○各教材のてびきにある「言葉の力」という囲みで、読み取り方や書き方のポイントが示され、その力を使いこなせる工夫がある。 ○古典に関連した解説文を巻末に掲載することで読みを深められる工夫がある。 ○「漢字道場」や「文法の窓」では、問題形式で取り組みやすい。 ○キャラクターを使用した会話で内容説明しているのも親しみやすい。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○思考力や想像力を養うために文章の読み方が丁寧に説明されている。 ○「目標」「問いかけ」「言葉の力」「振り返り」という共通の学習の流れにより、言語活動が活動のみならず、主体的な学びになるように構成されている。 ○言語活動の具体例を多くすることで活動をスムーズに進める工夫がある。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「学びの扉」では、中学生が疑問に思うようなことをキャラクターが台詞として話し、考えを深めようとしている。日常でどのように国語の力が必要になるかなど学習と関連していることが理解できる。 ○巻末の基礎編では「学びを支える言葉の力」というところで各領域に必要な力をポイント整理している。 ○紹介文・プレゼンテーション・話し合いのページを比較的多く扱っている。 </p> <p> <読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫> ○「戦争・平和」「福祉・共生」「名作」「その他」に特化した読書案内(1年)は、とても見やすく、読みやすい。各学年とも学期末を想定して掲載されているのがよい。 ○現代を描いた魅力ある作品を紹介するとともに、ビブリオバトル(2年)・読書会(3年)の方法を紹介し、読書を通して交流を深めるきっかけを与えている。 </p>	
資 料	<p> ○Dマークを付した教材には、音声や動画で資料が提供されている。情報や文法についてはワークシートや練習問題が提供され、家庭学習支援としては有益である。 ○漫画を使用していることで読みやすく親しみやすい。 </p>	
表記・表現	<p> ○表紙や中扉には親しみやすい絵や写真が使われている。 </p>	
総 括	<p> ○基礎編・資料編が充実しており、学習内容が明確である。 ○豊富な資料提供と中学生の目を引く漫画やキャラクターが採用されている。 </p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">現代の国語</h1>	15 三省堂
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年の説明文教材の前にプレ教材としての「読み方を学ぼう」を配し、読み方を活用することで確かな力につなげている。「読み方を学ぼう」では、文章を正確に読み解き、深く読み味わうための工夫がある。巻末に改めて提示しているのもよい。 ○「学びの道しるべ」は、学習の目標や流れ、振り返りが簡潔丁寧に行われている。 ○各教材に付している「思考の方法」「語彙を豊かに」の囲みは、情報に対する思考を深めさせたり、多様な語句を身につけさせたり、基本的な知識・技能が習得できる。 ○教材の脚注欄に類義語や対義語を示しているのも語彙を増やす工夫である。 ○古典教材が大きく扱われ、説明やレイアウトも見やすく、安定感がある。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報を的確にとらえ、考えを深め、確かなものにするための方法が巻末の「思考の方法」にまとめられている。資料編では、様々な場面で活用できる資料が繰り返し掲載され、親しみやすい古典芸能なども学年別に意図的に紹介されている。 ○読む楽しさを味わう作品や書きおろし教材、優れた表現を持つ作品を取り上げ、生徒の学ぶ意欲を喚起させている。「読む」から「話す・書く」へつなげている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○人とのかかわりを大切にしながら思考を深め、コミュニケーション能力を高める工夫がある。各学年共通して年度当初に「グループディスカッション」を設け、意見交換の場としている。また系列を分けて系統的に学習できるよう構成されている。 ○3年生では親しみやすい俳人の文章を用い、俳句の世界へ上手く誘い込んでいる。さらに批評文を書く課題につなげているのもよい。 <p><読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「私の読書体験」に作家の文章を掲載し、読書への興味・関心を誘っている。「読書の広場」の「小さな図書館」には、分野別に本の紹介が丁寧にされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻末の「文法」「読書の広場」「資料編」は、簡潔・丁寧まとめられていてとても扱いやすい。特に資料編は「情報活用」「古典芸能」「社会生活」「参考資料」と教材学習と関連付けて学ぶ力を高め、知識を改めて整理できる頁としている。 ○古典教材のQRコードには、他教材へと学習が広げられる工夫がある。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○段組みが少なく、余裕をもって表記されているためとても見やすい。紙質もよくて明るい。文字の大きさや行間も適当である。「歌の言葉」の頁、斬新である。 ○巻末資料のページの色分けもわかりやすく開きやすい。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○わかりやすい図解や見開き完結のレイアウトで何を学ぶのかがわかりやすい。 ○各単元での学び方やそこで扱う考え方に系統性が感じられる。 	

書名 項目	<h1>伝え合う言葉 中学国語</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各教材の前に「学びナビ」があり、何をどのように学ぶかなど、見通しを持った学習ができるようになっている。 ○「学びチャレンジ」のページでは、これから求められる力を育成するための問題を載せている。 ○1年の巻末には、「落語」や「小倉百人一首(全首)」が掲載されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○読むことに力を入れた構成になっている。特に、説明的文章の読み方を学び、要約力をつけたり、伝達力を高めようとしたりする意図がうかがえる。 ○「持続可能な開発目標（SDGs）」を国語科の視点でとらえ、現代と未来をつなぐことに貢献するとともに将来の暮らし方の課題解決の一助となる資料を提供している。 ○現代社会を生きる若者にとって価値ある、より洗練された説明的文章を数多く掲載している。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○教科書の扉に加藤周一の文章を載せることで、言葉を学ぶ意義を尊重する態度を養うきっかけをつくっている。 ○以前から親しまれている教材と新たに加えられた教材とバランスよく配置され、広く言葉が学べる。 </p> <p> <読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫> ○「広がる本の世界」がテーマ別に複数回配置され、読書の視野を広げている。また、読書单元にもレポートやインターネット活用などの言語活動例を載せることで、読んだことを次の活動へつなげる工夫がある。 </p>	
資 料	<p> ○解説編として「言葉と文法」がまとめてあり、資料として扱いやすい。復習ページがあるのもよかった。 ○「言葉の自習室」の資料は、各領域の補充学習ができるようになっている。 ○QR コードから引き出される「まなびリンク」の資料(ワークシート)は、大変充実している。ほぼ全单元にかかわる資料が掲載されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○短歌など読み間違えそうな文字には、フリガナが付してある。 ○単元の扉に各作品のキーワードがあり、興味を引く工夫がされている。 </p>	
総 括	<p> ○現代社会と教材との結びつきが強く、学んだことを社会生活へ生かしていける。 ○読書案内・読書活動のページが比較的多く、充実している。 </p>	

書名 項目	<h1 style="font-size: 2em; margin: 0;">国 語</h1>	38 光 村
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○情報の扱い方を習得し、思考・判断・表現力を育成するために「情報整理のレッスン」や「思考のレッスン」を設け、繰り返し活用することで力をつけられるよう教材配列している。また、それを主体的に活用できるよう全学年の巻頭に「思考の地図」がある。脚注に練習問題も用意されている。 ○古典への導入がスムーズにできるよう図版資料の提示がある。古文の横に青色刷りで口語訳が書かれているのは、高校への円滑な接続を図った工夫とみられる。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○文学作品、特に詩歌と物語が充実している。想像力を豊かにする意図が見える。春夏秋冬「季節のしおり」にある詩歌や季語が語彙を増やす機会となっている。 ○対話的な学びの基礎を築くために毎年度「聞き上手になろう」の系列を配し、相手の思いや考えを引き出す質問例を挙げ、主体的に聞く力を育てようとしている。 ○「学習の窓」には、文章の読み方や学び方が載り、読む際の手助けとなっている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○論理的思考力を高めるための新しい教材が説明的文章に多く見られる。比較して読める教材を配し、3年生では、人工知能についての説明文から批評文への書き取り、そこから話し合い活動へとつなげているのがわかる。 ○教材ごとに言語活動に関連する内容が付してあり、つなげて指導しやすい。 </p> <p> <読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫> ○読書生活を豊かにする単元があり、作家の文章が紹介されている。さらに読書案内のページが続き、コラムも載っている。年2回の「読書生活を豊かに」と「読書に親しむ」は、読みを広げたり、読み比べたり、本の探し方を学ぶことで日常の読書量を増やそうとしている。 ○読書教材さらには資料編で古典や近代文学の系列をあえて設定しているのもよい。 </p>	
資 料	<p> ○QR コードから学習の参考となる資料を読み取ることができる。主に音声・動画資料が提供され、話す活動の動画はわかりやすい。関連学習としての効果が期待できる。 ○「言葉を集める・比べる・選ぶ」「語彙を豊かに」「季節の言葉」など、語彙を増やす工夫が随所に感じられる。 </p>	
表記・表現	<p> ○脚注の表記の仕方が充実している。新出漢字の読み方だけでなく、熟語としての用例が示されている。 ○巻頭の「学習の見通しをもとう」の表記が一目瞭然で分かりやすい。 </p>	
総 括	<p> ○文学は1年生で新しい教材を配し、説明文は全学年ともに新教材を載せている。 ○「話す・聞く・書く・読む」活動のバランスがよく配置されている。 </p>	